

SDGs

成長につなぐ — 事例17ゴールズ&169ターゲット

130

仙台 reborn

東日本大震災の被災地である仙台市若林区の藤塚地区で新たな復興プロジェクトが進んでいる。その核が仙台 reborn（仙台市青葉区、深松努社長＝深松組社長）が手がける温泉施設を軸とする複合観光施設「アクアイグニス仙台」。温泉棟には最新の地

中熱回収システムなどを導入し、エネルギーの地産地消にも取り組む。地中熱に加え、浴室排気熱（湯気）、排水熱などの熱回収で施設の温度調整に活用する計画。東北電力と東北開発コンサルタント（仙台市青葉区）が提案した。試算で



地中熱回収システムを説明する深松社長

温泉施設、地中熱回収システム導入

は、通常システムでは年間約4000万円かかる冷暖房などのランニングコストを1800万円程度削減できる見通し。

地中熱回収システムは温泉棟の地下3・614・6層、約1650平方メートルのスペースにらせん状に巻いた樹脂製のスリンキー式コイルを敷設した。同コイルで地中熱を回収し、蓄熱槽に熱を供給する。

全体システムでは地中熱、湯気、ボイラの排気熱、排水熱を回収し、蓄熱槽に約50度Cの熱を蓄熱する。

回収した熱の利用先は、温泉の加温・シャワー、施設の床暖房、今後設置する農業ハウスの土壌温調など。国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、仙台 rebornの深松社長は「高効率なシステムの導入により『エネルギー』への貢献を進めていく」としている。

仙台 rebornは、深松組（仙台市青葉区）など3社が仙台市東部沿岸部の集団移転跡地の活用事業を進める運営会社として2019年に設立した。

アクアイグニス仙台は22年4月に開業予定。総事業費は約30億円、敷地面積は約3万2490平方メートル。ここに温泉棟、農園レストラン、スイーツ・ベーカリー・レストランなどを配置する。オープンに向け、地域で約200人以上の雇用を見込む。深松社長は「今後は周辺沿岸部の観光施設と連携を進め、地域が活性化する仕組みをもとに構築していきたい」と先を見つめる。



温泉棟地下に敷設した樹脂製のスリンキー式コイル